

TBG同窓会報

— TBG Alumni Association News —

2009年7月
Vol.1

東北文化学園大学
同窓会

東北文化学園大学同総会

会 長 堀江 裕宗

(平成15年 大学・応用情報工学科卒)

株式会社サンケイアイ 勤務



まずは初めまして。同窓会会長をさせて頂いております一期生の堀江です。同窓会が発足してから今日まで、満足な活動をしてなかったため、東北文化学園大学に同窓会という組織があることを知らなかった方もいらっしゃる事でしょう。残念ながら同窓会自体がまだ未熟であり、活動出来なかったということが実状でした。

開学10周年を迎えた今、同窓会を本来の在り方に近づけようと、活動を開始致しました。もちろん急には他学のような活動をすることはできないでしょう。しかし、これから先、何年、何十年と運営出来るように基礎をしっかりと作りあげたいと役員一同考えております。

さて、今から6年前、記念すべき東北文化学園大学の第一期生が卒業した日に同窓会は正式に発足いたしました。

我々の大学は、1993年開学の東北技術短期大学を改組転換し1998年に新設された歴史の浅い、しかし、大きな希望と期待に満ち溢れている大学でした。私は今でもあの入学した日の事を鮮明に覚えております。

その後、私の在学中も大学はその組織や体制が常に変化していきました。講義内容・学友会・サークル・大学祭……より良い形になる為に模索していた時代だったと思います。10年たった現在も大学は成長し続けています。新たな学部ができ、Student JOBのような新しい制度が出来ています。これでまた新しい道を開いていくことでしょう。

ところで皆さんは、卒業してから大学に行かれた事がありますか。私は年に一回くらいは行くようにしていますが、その度に新しい発見があります。キャンパス内の様相もそうですが、自分達の頃にはなかったものが今たくさんあります。しかし変わらないものもあります。それは私達が培ってきた伝統や精神を受け継ぎ、今も新しい道を模索し続けている学生、後輩達です。卒業以来大学に行かれた事がない方は是非、足を運んでみて下さい。あまりの違いにきっと驚くことと思います。そして私達の時代と変わらない学生達が、あの頃の思い出を鮮明にしてくれる事でしょう。

私達はまだ社会に出て日は浅く、大学にも、今いる後輩達の力になれることは多くはありません。しかし、これから何年もすれば力になれる事も多くなっていくはずです。同窓会も規模はどんどん大きくなり、出来る事も多くなっていきます。しかし、同窓会員である皆さんの協力がなければ、十分な役割を発揮出来ないのです。大学がこれから20年・30年と歴史を刻んでいける様にOB・OGとして、皆さんの力を貸して下さい。

contents

- 1 ご挨拶
- 3 大学の近況
- 4 略年表と写真で振り返る『大学の軌跡』
- 6 活躍する卒業生
- 8 事務局から



学校法人東北文化学園大学

理事長 小山 昭夫

大学創立十周年 記念に寄せて

本学が十周年を迎えたことは大変慶しいことであります。しかし大学も

人生と同じで十年の間に色々目まぐるしい出来事の去来がありました。特に本学が受けた受難の出来事は平成十六年末の民事再生法という試練であります。降ってわいたような衝撃に敢然と立ち向ったのは、当時の学生諸君、その御家族の皆さん、そうして教職員の血みどろの努力のおかげで、今日の本学再生は達成されたのです。その当時を憶い起すだけでもガラスが破られたような緊張感、それは時として教職員の間でも協力しようという一体感の絆の中、一人離れ二人離れてゆく寂寥感のなか、地元仙台市民の皆さんに感謝の気持ちを表わす「感謝の日」の奉仕活動は仙台市民をはじめ援助して下さった多くの東北の人々に対

することは勿論のこと、われわれ自身を鼓舞する力として今日なお続けられているものであります。

そうして五年が過ぎ大学は安定の方向に向って落ち付いてきたところに今度は少子化による大学入学生の減少問題にさらされています。

しかし、われわれは昨日の教訓を体験しています。正々堂々と明日に向けて戦う姿勢は出来ています。そうして孤軍奮闘ではなく、そこに皆さんの、即ち同窓会の皆さんの陰日向ない援助の目を感じながら努力していきたいと願っています。どうか皆さん！皆さんが何処にいても、誰に聞かれても「私は東北文化学園大学出身です。」といって戴けるような大学を目指していきたいと思っています。

大学創立十周年記念を迎えるにあたり、一人でも多くの同窓生にお集まり願ひ、本学発展の礎となつて戴くことを希つて、われわの自覚を昂め、本学の一層の発展を御約束する次第であります。



東北文化学園大学

学長 高坂 知節

創立10周年に寄せて

東北文化学園大学は平成11年に1期生を迎えて開学しましたので、本年が10周年になります。この3月には7期生が無事卒業して同窓会の仲間入りをしました。皆さまご存知のように、7期生は、受験の時期に新聞紙上などで大学批判が連日報道されて、本学が混乱期にあつたにも拘わらず、本学を志願して入学してきた勇気ある学生諸君でした。この年は、流石に入学者数は減少しましたが、7期生の諸君は入学後にしっかりと勉学に専念し、この春に、晴れて社会人となつて本学を巣立っていったのです。

本学の同窓会も、同様に大きな影響を受けて、ここ数年間は本格的な活動が出来ずに休眠状態にありましたが、本年になつてようやく理事役員会が開催されるなどの活動が再開されました。学長として、大変に嬉しく思っているところです。やはり、大学には、母校に熱い眼差しを送っていただけ

る同窓生の後ろ盾があつて、はじめて一人前の大学と評価されると思います。どうぞ、これからも末永いご支援を宜しくお願い致します。

さて、本学は厳しい大学間の競争に晒されながらも、着実に回復軌道を歩みつつあります。私が着任して以来、新入生の数は、徐々に増えて、本年は573名の多きに達しました。また、財務状況の指標ともなる債務返済も着実に実施され、平成26年には完済の見込みとなっております。しかし、この予定も、今後の入学者数が順調に伸びることによつてはじめて可能となるものです。油断は禁物です。全国津々浦々において活躍しておられる同窓生の皆さまの暖かいご支援を、心からお願いしたいと思います。

最後になりますが、本年8月9日には、10周年の記念事業を行う予定です。は、同窓生の皆さまにおかれましては、是非ともお誘ひ合わせの上、仙台にお越しください。全校をあげて歓迎致します。

大学の近況

東北文化学園大学は、常に時代のニーズを捉え、変化を続けています。今回は、2008年に医療福祉学部リハビリテーション学科に新設された2専攻と、学生が主体となっており、有償ボランティア制度（スチューデントジョブ制度）をご紹介します。

リハビリテーション学科新専攻 「言語聴覚学専攻」

学科長 沖津 卓二教授



本専攻は、平成20年4月、本学医療福祉学部リハビリテーション学科に開設されました。東北地方の4年制大学としては初めての開設で、言語聴覚士を目指す学生を教育することを目的としています。現在、1年生30人、2年生9人が在籍しています。

言語聴覚士は平成11年3月に第1回国家試験が施行された非常に新しい国家資格で、聴覚、言語、音声機能などの問題に伴うコミュニケーション障害や嚥下機能障害のある人に、専門的な検査やリハビリテーションを行う医療技術者です。しかし、その知名度は理学療法士や作業療法士と比べると、宮城県をはじめとする東北地方ではまだまだ低いのが現状です。

本専攻では人間性豊かな高度専門職を育てる教育カリキュラムと最新の教育設備を整えて、学生の獲得にも

「視覚機能学専攻」

学科長 佐々木 一之教授



平成20年度より本学医療福祉学部リハビリテーション学科に「視覚機能学専攻」が新設されました。眼科領域の中では欠く

ことのできない視能訓練士（国家資格）の養成を主たる教育目標とする学科で、全国的には4年生大学として7校目、東北・北海道では唯一の養成大学です。平成21年度は開講2年目になります。東北地区では視能訓練士という職種の認知度が未だ低いこともあり、そのため少ない学生数でのスタートになりました。しかし、1年、2年の学生諸君は新設学科1、2期生の自覚をもって勉学に励んでおりますので今後の大学、学部あるいは専攻学科同窓会活動でもよき先導者となってくれるものと期待しています。

スチューデントジョブについて

保健福祉学科 4年 佐々木 寿



Student JOB（通称「S J」）とは、多くの先輩方にとって耳慣れない名称と思われます。

このS Jは、2006年に設けられた学生主体で行われる有償ボランティア制度です。

この制度は、活動場所が学内であることから、授業や実習で忙しくアルバイトをする時間のない学生も、移動の必要がなく、ちょっとした授業の空いた時間でも活動できるシステムなので、多くの学生が参加すると共に好評を受けています。126名から始まった活動ですが、現在（8期生）では600名を超える学生が登録しています。

また、設立当初は、学内の清掃業務を主としていましたが、現在はノートPCの貸出業務や図書館のカウンター業務といったように年々、活動内容が多岐に亘るようになりました。

最近では、学校近隣の清掃といったように活動範囲も広げており、地域からも認められる活動になりつつあります。

視能訓練士は全国的にはまだまだ絶対数が少ない職種であり、しかも仕事の質、範囲は近年急速に拡がり、専門化も進んでおります。当学科は視能訓練士養成大学としては学科名（英文）Visual Science Courseとありますように、広く視覚の科学を勉強してもらおうと言う、他学とは若干異なるユニークな教育目標を掲げています。教授陣は長年医系大学で基礎医学、臨床眼科学、眼光学を専門に教鞭をとっていた者で構成されていますが、他に多

くの専門領域の客員教授の方々にも授業を担当していただいております。学生諸君には卒後の進路は視能訓練士のみにこだわらず、広く光学にかかわる企業、あるいは研究者への道なども考えて勉強してもらっています。視覚機能学専攻は4号館にあります。同窓生のみならず、本学にお出かけの際は是非見学にいらして下さい。詳しくは学科ホームページ（<http://www.tbgu.ac.jp/reha/ort/>）をご覧ください。

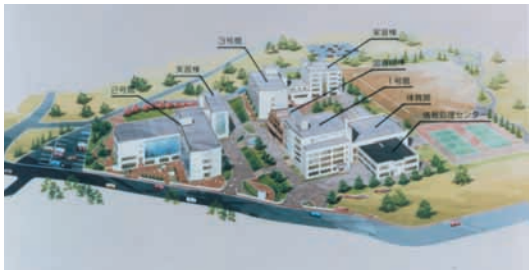
略年表と写真で振り返る『大学の軌跡』

学校法人東北文化学園大学は、東北科学技術短期大学開学から16年、東北文化学園大学の開学から10年を迎えました。今日も、希望に満ちた学生達が充実したキャンパスライフを送っています。

同窓生の皆様が卒業されてからも、学内では、新しい校舎が増える、学科が新設されるなどの様々な変化を遂げています。短大開学から現在までの軌跡を略年表にしました。在学中の日々を懐かしんでいただくと共に、学園の変化をご覧ください。

なお、次号以降、その軌跡を詳しくご紹介してまいります。ご期待ください。

時事ニュース										西暦		月		学園の出来事	
(5月) 日本プロサッカーリーグ「Jリーグ」開幕	1993	4	東北初の理工系カレッジ・東北科学技術短期大学開学												
(6月) 皇太子徳仁親王殿下と小和田雅子さんの「結婚の儀」挙行	1994	5	学校法人東北文化学園新校舎(6号館)完成												
(7月) 日本人女性初の宇宙飛行士・向井千秋さんを乗せた、スペースシャトル・コロンビア打ち上げ	1994	5	学校法人東北文化学園新校舎(6号館)完成												
(10月) 大江健三郎氏、ノーベル文学賞受賞	1994	5	学校法人東北文化学園新校舎(6号館)完成												
(7月) L.A.ドジャースの野茂英雄投手が、米大リーグ第66回オールスターゲームで先発好投	1995	12	学校法人東北文化学園東京事務所開設												
(7月) 近代五輪100周年記念となるアトランタ五輪開幕	1996	5	学校法人東北文化学園新校舎(7号館)完成												
(9月) L.A.ドジャースの野茂英雄投手がノーヒットノーラン達成	1996	5	学校法人東北文化学園新校舎(7号館)完成												
(4月) 消費税5%にアップ	1997	3	学校法人東北文化学園新校舎(8号館土木実習棟)完成												
(7月) 香港が中国に返還	1997	3	学校法人東北文化学園新校舎(8号館土木実習棟)完成												
(2月) 冬季オリンピック長野大会で、スピードスケートの清水選手やジャンプ陣が活躍	1998	10	4	学校法人東北文化学園厚生会館(厚生棟)完成											
(4月) 金融制度を抜本的に改革する日本版ビッグバン施行	1998	10	4	東北文化学園大学設置認可、法人名を「学校法人東北文化学園大学」と改称											
(4月) 東京都知事に石原慎太郎氏が初当選	1999	4	東北文化学園大学開学(東北科学技術短期大学を改組転換、東北文化学園専門学校に改称(専門学校を統合))												
(5月) 佐渡トキ保護センターで、国内初の人工ふ化によるヒナ誕生	1999	4	東北文化学園大学開学(東北科学技術短期大学を改組転換、東北文化学園専門学校に改称(専門学校を統合))												
(7月) 沖縄サミットと西暦2000年を記念し、新二千円札発行	2000	8	5	短大同窓会設立											
(10月) 筑波大学名誉教授の白川英樹氏がノーベル化学賞を受賞	2000	8	5	短大同窓会設立											
(4月) 森内閣が総辞職し、小泉純一郎氏が第8代内閣総理大臣に	2001	10	9	7	4	在仙大学、短大16校と山形の1校が参加し、学都仙台単位互換ネットワークスタート									
(9月) アメリカ同時多発テロ発生	2001	10	9	7	4	在仙大学、短大16校と山形の1校が参加し、学都仙台単位互換ネットワークスタート									
(10月) 米大リーグ・マリナーズのイチロー外野手、首位打者、盗塁王を獲得	2001	10	9	7	4	在仙大学、短大16校と山形の1校が参加し、学都仙台単位互換ネットワークスタート									
(4月) 全国の公立小中学校で「完全週休5日制」実施	2002	4	開学以来初の「保護者懇談会」を開催、仙台を始め4会場で開催												
(5月) 史上初のアジア開催・2カ国共催の第17回サッカーワールドカップ開催	2002	4	開学以来初の「保護者懇談会」を開催、仙台を始め4会場で開催												
(8月) 「住民基本台帳ネットワーク」が稼働	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												
	2002	8	第1回障害者スポーツ大会開催にあたり、本学から90名以上がボランティアとして参加大会のサポートを行う												





忙しくも充実した 学生生活を振り返って

羽田 孝幸さん

(平成15年大学・総合政策学科卒)
株式会社読売情報開発 勤務

このたびは東北文化学園大の同窓会報の創刊おめでとうございます。

私の近況ですが、卒業後、現在の会社((株)読売情報開発)に入社し約6年間、地元近くの福島県郡山市に住んだ後、平成21年3月より転勤で岩手県の盛岡に住所を移し生活しております。

今まで大学時代も含めて「福島(福島市)→仙台→福島(郡山市)」と南東北が生活の場であったため、初めての北東北の生活は、同じ東北であっても「南」と「北」では文化や、現地の人の性格、生活の便利さなどかなり違っており、いろいろな新鮮さを感じながら生活・仕事をしています。特に総合政策学部時代のゼミ「地域交通観光論」を専攻したこともあり、転勤後、北東北の観光と特産物に再び興味を持ち始め、休日はなるべく岩手県内の観光名所、物産館に足を運んでいます。

母校在学中は、読売新聞の奨学生として新聞配達、集金などの仕事をしながら大学に通う、今はほとんどいない「勤労学生」であったためか、学業と新聞奨学生の仕事との両立が大変でした。

特に1年のころは前・後期とも、必修教科の時間割が1コマから最終コマまでぎっしりと詰まっていたためか、新聞配達業務を終える間もなく大学に通い、最終コマ終了後は大学から直接新聞販売店に戻って集金やチラシ折込作業をする程、過酷な生活を送っていました。そんな生活の繰り返しと小柄な体格の私ゆえに、その当時「体を壊さないか」と当時のSA(スチューデントアドバイザー)の大原進教授や、後にゼミでお世話になる中村實教授などの先生方、当時の新聞販売店の人たちによく心配されたことを昨日のこのように思い出します。

それでも大学では学友会の役員を務め、3・4年次の中村先生のゼミではゼミ長を受け持たせていただきましたし、学部の友達と飲んだり・遊んだりすれば、リフレッシュでき、新聞販売店の仕事もほとんど休まず勤めることができました。今思うと「タフだったなあ」と思いますし、彼女を見つけれなかった以外(笑)は、すごく充実した学生生活を送れたな、と思います。

卒業後は、仕事の忙しさから大学との関わりはあまり深く持てずじまいですが、大学の同級生などとの個人的付き合いは比較的あり、当時のゼミ仲間や、ゼミの教授であった中村先生と交流は続き、ゼミ仲間と仙台や郡山で個人的な形でありますが飲んだりもしており、その頻度もここ1・2年で増えつつあります。

同窓会も本格的に始動することを機に、大学仲間や後輩との交流が増えることが今後の楽しみです。

最後に、総合政策学部1期生OBとして、母校の繁栄はもとより、同窓会組織が末永いものであることをお祈りいたします。

(岩手県盛岡市在住)



東北科学技術短期大学2年間の 学生生活を振り返って

高橋 秀之さん

(平成7年短大・情報工学科卒)
東北学院大学 勤務

時が立つのは早いもので、東北科学技術短期大学の情報工学科を1995年3月に卒業してから早14年が過ぎ、自分がアラサー世代(Around30, 30歳前後)とアラフォー世代(Around40, 40歳前後)の狭間の世代であることに気がつきました。

さて、学生の頃は、仲良しの友人達と席を合わせて講義を受けたり、休み時間は色々な雑談で盛り上がり、また、当時の短大で学長であった大内先生の企画で、学生を学長の自宅に招く食事会に参加するなど、短大が開学したばかりで、これから学生と教職員が同じ船に乗り、一丸となって短大を盛り上げていこうとする活気に満ち溢れていました。それが今でも懐かしく感じます。

現在、東北学院大学へ就職し今年で15年目となり、情報システム部情報システム課(土樋情報処理センター)に所属しています。東北学院大学情報処理センターは、土樋情報処理センター、多賀城情報処理センター、泉情報処理センターのキャンパス毎に設置された3つのセンターで構成され、キャンパス毎に特色のある情報教育および各種研究の支援を行い、学生および教職員の皆様にご利用いただいています。

土樋情報処理センターは、主に文学部・経済学部・経営学部・法学部におけるコンピュータリテラシー教育、外国語教育等に活用され、コンピュータの基礎的知識、情報収集能力、他者とのコミュニケーション能力、プレゼンテーションによる自己表現能力など、社会で実践的に活かせるコンピュータ利用技術の習得の場となっています。

新人の頃は、わからないことばかりで多々苦労したこともありましたが、1年1年時間をかけて色々学んだことで今では仕事にも慣れ充実した日々を送っています。

在学中は、香野先生、石田先生、鈴木先生、神村先生には大変お世話になりました。印象に残っているのは、香野先生からは、まだ入学したばかりの時に、情報工学科全員の学生を教室に集め、実験レポートの書き方を詳しく教えていただいたこと、鈴木先生、神村先生からは、プログラミングの基礎を学んだこと、そして、2年生の卒業研究では、石田先生の研究室に所属し、社会人として業務で重要となる計画(PPLAN)、実行(DO)、評価(CHECK)、改善(ACT)などをご指導いただき、それを実践したことにより、社会人としての基礎を培うことができました。

最後になりましたが、東北文化学園大学の開学10周年を心よりお祝いいたしますとともに、現役学生の皆さんにおいては、学生生活の一日一日を大事に過ごし、先生方から多くのことを学んでほしいと思います。(宮城県仙台市在住)

【参考】東北学院大学情報システム部情報システム課
(土樋情報処理センター)
<http://www.tscc.tohoku-gakuin.ac.jp/>



活躍する卒業生

これまでに卒業した同窓生は4,500人を超え、それぞれが思い思いのフィールドで活躍しています。東北文化学園で学んだことを様々な形で活かして活躍する卒業生の、在学中の思い出と現在の近況をご紹介します。

「活躍する卒業生」寄稿者募集



同窓会事務局では、本コーナーにご寄稿いただける卒業生を募集しております。
在学中の思い出や近況を、形にしてみませんか？
自薦、他薦は問いません。興味のある方は同窓会事務局までお気軽にお問い合わせください。
お問合せ先 東北文化学園大学同窓会事務局 電話 022-233-6194(同窓会直通) メール alumni@office.tbgu.ac.jp

大学生活で得ることができた 仲間とチャレンジ精神

齊藤 誠人さん

(平成20年大学・保健福祉学科
精神保健福祉専攻卒)
東日本旅客鉄道株式会社 勤務



私が学生時代大切にしていたことは、「チャレンジすること」そして「人の繋がり」です。たくさんの仲間と共に、何事にも果敢にチャレンジしていきたい。その想いだけで駆け抜けた4年間でした。

例えば、サークルでは保護者と学生で行う新しいタイプの学童保育を実践し、保育を肌で学んだり、仙台七夕まつりに向け近隣の小学生たちと七夕飾りを共同制作し、銀賞を受賞したこともありました。その他にも、仙台市の政策として小学校の統廃合がすすめられる時、3日で1000人を越える反対署名を集めたことや、精神障害者の就労に関わるボランティアに携わったことなど、ここには書き切れない貴重な経験をさせて頂きました。

この貴重な機会や経験を与えてくれたのは、たくさんの仲間や支えて下さった指導者の方々の存在があったからです。決して鮮やかな思い出ではありません。自分の無力さは常に感じていました。

そして同時に、全く知らない環境へ足を踏み入れ、自分自身を見つめ直したいという想いが芽生え、JR東日本に勤務することを決めました。

当社は非常に公共性が高く、大きな社会的責任を担っています。例え、10年に1回の事故であっても許されません。その責任の裏側に、人々の命、生活が存在しているからです。「人の生活に携わる責任」という点では、「福祉」と共通する部分もあるのかもしれません。

入社以前は民間企業に就職することを躊躇いましたが、今は社会的責任を全うする担い手になれることに、とてもやりがいを感じています。

今後、無事試験に合格し訓練を経れば、車掌、運転士として現場第一線で業務に従事していることでしょう。その先の具体的な将来像は想像できていませんが、学生時代に学んだ「福祉」を基に、誰もが安心して利用できる駅づくりや鉄道サービスを、自ら提案し創りあげていくことにチャレンジしたいです。高い公共性、大きな社会的責任を担っているからこそ、地域社会に貢献できる可能性を数多く秘めていると思っています。

これからきっと多くの壁にぶつかるでしょう。しかし大学で得た「チャレンジ精神」と、私を影で支えてくれる「仲間の存在」が、不安や困難を「希望」に変える原動力になることを信じ、今は一步一步着実に歩んでいきます。

私にとっての大学4年間は、これから生き抜くための、大事なものを与えてくれた素晴らしい時間でした。

(福島県郡山市在住)

沢山の思い出を重ねた 大学生活4年間

佐瀬 正志さん

(平成15年大学・応用情報工学科卒)
古川NDK株式会社 勤務



同窓会報と言うお話を頂き、何を記載すればいいのか？難しい…。だけど、沢山の思い出は残っている物なのだと改めて、思い出させてくれた。右も左も無い一期生として入学し、すべてが新鮮な形で経験として積み重なり、土台となり今に繋がっているのだと。もちろん、勉強・知識を学ぶ為の学校なのだけれど。

4年間の学生生活の中では、文化祭実行委員として寝ずに準備をし、大きな行事を無事に終える事ができた事。意味もなくギブスを付け、数ヶ月間登校し、皆さんに御心配頂きました。心優しい皆様の対応を思い出すと心が痛みます(笑)。下らない事に全力で取り組んでいた事が懐かしく、良い思い出です。沢山の思い出を思い出す事ができる事が、素晴らしい学生生活を送っていた証なのだと思います。

大学卒業後、宮城県内にある、古川NDK(株)に勤めています。小さな電気部品を作る工場です。生産の仕組みを学び、一つの工程の大切さを学びました。製品一つ一つに特徴があり、性質を見つけるのには、苦勞をしていました。現在は、製造部・技術部の経験を生かし、生産統括部に所属しております。情報・受注を元に、数通りある生産スケジュールの作成・指示、また、数ヶ月先までの生産計画・部材の手配・売り上げ計画の作成が主な内容です。一つの手配・計画ミスが大きな影響を与えてしまうため、気を抜く事ができない内容になります。営業を通してお客様との対応なのですが、それでも大手家電メーカーや、車載メーカーとの対応の為、精神的に追い詰められる事も多々あります。逆に、先の見えないこのご時世の中、計画が巧く行った時は嬉しいものです。お客様は国内だけではなくではありません。特に大手メーカーの量産工場は国外に在る事が多く、今になって一番嫌いだっただ英語には大変苦勞し、もっと勉強していればよかったと、後悔しています。

年々、連絡を取る事が薄れてきていますが、何かの拍子に連絡を取った時、皆との会話は力になります。ほとんどが、愚痴になる事もあるけれど、それでも楽しい時間を共に過ごしてきた時間を思い出す事は本当に素晴らしい事です。どんな些細な事でも、連絡を頂ければ、嬉しいです。そして何時か又、皆で遊べればいいですね。

最後に質問です。

あなたは、学園歌「輝ける者」を覚えていますか？

(宮城県登米市在住)

事務局から

東北文化学園大学同窓会会則

平成15年3月20日制定

(名称)

第1条 本会は、東北文化学園大学同窓会と称する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、東北文化学園大学(以下「本学」という。)の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1)会報及び会員名簿の作成

(2)講演会、懇談会等の開催

(3)その他本会の目的を達成するために必要な事業

(会員)

第4条 本会は、次の会員をもって組織する。

(1)正会員 本学及び旧東北科学技術短期大学(以下「短大」という。)の卒業生並びに本学及び短大に在籍した者で理事会が承認した者

(2)学生会員 本学の学生

(3)特別会員 本学の教職員並びに本学及び短大の旧教職員

(4)特別名誉会員 本学理事長

(5)名誉会員 理事会が承認した者

(役員)

第5条 本会に、次の役員を置く。

(1)顧問 若干名

(2)会長 1名

(3)副会長 2名

(4)理事 若干名

(5)監事 2名

(6)幹事 若干名

2 顧問を除く役員の任期は、3年とする。ただし、重任を妨げない。

3 前項の役員に欠員が生じたときは、補充を行う。

4 前項の役員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 役員は、無報酬とする。

(役員の選出)

第6条 顧問は、学長及び会長経験者をもって充てる。

2 会長及び副会長は、正会員の中からそれぞれ総会において選出する。

3 理事及び監事は、正会員及び特別会員の中から、それぞれ総会において選出する。

4 幹事は、会長が理事会の同意を得て正会員の中から指名する。

(役員の任務)

第7条 役員の任務は、次のとおりとする。

(1)顧問は必要に応じ理事会に出席し意見を述べる。

(2)会長は、本会を代表し、会務を統括する。

(3)副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

(4)理事は、本会の事業運営に当たる。

(5)監事は、会計及び会務を監査する。

(6)幹事は、会員相互の連絡調整に当たる。

(総会及び理事会)

第8条 総会は3年に1回開催し、次の事項を審議する。ただし、総会が開催されない年度における予算決算に関する事項及び緊急に審議を要する事項については、理事会において、その都度審議決定し、総会に報告するものとする。

(1)予算決算に関する事項

(2)役員の選出に関する事項

(3)会則の改廃に関する事項

(4)本会の事業に関する事項

(5)その他本会の運営に関する重要事項

2 理事会が必要と認めた場合は、臨時に総会を開催することができる。

3 理事会は、会長、副会長、理事、監事及び幹事をもって構成し、会務の執行に関する事項を審議する。

4 総会及び理事会は、会長が招集し、その議長となる。

5 総会及び理事会の議事は、出席者の過半数をもって決する。

(会計)

第9条 本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもって充てる。

2 会費は、次のとおりとする。

(1)学生会員は、入学時に入会金5,000円を納入するものとする。また、一旦納入した入会金は一切返還しない。

(2)正会員は、終身会費として10,000円を4年次後期に納入するものとする。

(3)特別会員及び名誉会員からは、会費を徴収しない。

(会計年度)

第10条 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事務局)

第11条 本会に事務局を置く。

2 事務局に、事務局長、事務局次長及び事務局職員若干名を置く。

3 事務局長には本学事務局長を又事務局次長には本学事務局教務部長をそれぞれ委嘱する。

第12条 この会則の改廃は、総会の決議によらなければならない。

附 則

1 この会則は、平成15年3月20日から施行する。ただし、平成15年度以前の入学者にかかる入会金は、終身会費と併せて納入するものとする。

2 短大出身者である正会員にかかる終身会費については、第9条第2項の規程にかかわらず、併合前の短大同窓会の資金をもって一括充当する。

同窓会役員紹介

現在、東北文化学園大学同窓会設立総会(平成15年3月18日開催)において選出された、卒業生9名が着任しています。また、会則に従い、顧問には高坂知節学長、監事(1名)には特別会員(本学の教職員並びに本学及び短大の旧教職員)に着任いただいています。

役職	氏 名	旧姓	卒業年	卒 業 学 科
会 長	堀 江 裕 宗		平成15年卒	大 学 応用情報工学科
副会長	高 橋 秀 之		平成7年卒	短期大学 情報工学科
副会長	豊 原 亮 子	高 橋	平成15年卒	大 学 リハビリテーション学科
理 事	羽 田 孝 幸		平成15年卒	大 学 総合政策学科
理 事	大 塚 由 香		平成15年卒	大 学 保健福祉学科
理 事	和 田 孝 一		平成7年卒	短期大学 建築設備環境学科
監 事	高 橋 秀 典		平成15年卒	大 学 情報工学科
幹 事	佐 瀬 正 志		平成15年卒	大 学 応用情報工学科
幹 事	佐々木 淑 恵	菅 野	平成15年卒	大 学 保健福祉学科

役 職	氏 名
顧 問	高 坂 知 節
監 事	学 生 部 長

同窓会名簿整備について

東北文化学園大学開学10周年の節目の年を迎え、これまで4,500名を超える卒業生が本学から巣立ちました。東北文化学園大学同窓会理事会としては、同じ学び舎で学んだ卒業生同士の交流を深め、大学の更なる発展を微力ながら支援していきたいと考えており、同窓会運営の基盤となる会員名簿の整備を行うことといたしました。

このことから、今般、大学のご協力をいただき、同窓生の皆様へ、同窓会会員名簿登録データを郵送させていただきました。お手数ではございますが、記載情報をご確認の上、ご返送いただけますようお願い申し上げます。

また、名簿の整備は、東北文化学園大学教務部学生課内に事務局を設置するとともに、榊廣済堂に業務委託しております。なお、ご登録いただいた情報は同窓会運営にのみ使用し、名簿の公表、販売等の予定はございません。

個人情報の取り扱いについて

本会では、同窓会入会時及び入会中に収集した会員の個人情報について、「東北文化学園大学個人情報保護規程」に基づき、適正に個人情報の管理を行っています。本会の運営に関する目的以外に第三者への情報提供は一切行いません。

なお、本会で使用する個人情報の利用目的は、次の通りです。

- 同窓会報の発行・送付
- 同窓会費徴収に関わる事務
- 同窓会が主催する同窓会総会及び行事の案内
- その他、上記に関連する業務

同窓会報タイトル募集

現在、本紙は「TBG同窓会報」として発行いたしましたが、より多くの皆様に親しんでいただける会報を目指し、会報誌正式名称を募集することとなりました。

同窓生の近況や大学の様子を垣間見ることができる、本紙に相応しい正式名称を同窓会員の皆様から広く募集いたします。皆様からの多数のご応募をお待ちしております。

【応募要項】

- 募集内容 「同窓会の活動」や「大学の近況」を広報する同窓会報の名称
- 応募締切 平成21年9月30日(水)
- 応募方法 ハガキ、FAX、e-mailにて以下の内容を明記の上ご応募ください。
 - ①名称案
 - ②名称の意味・説明等
 - ③応募者氏名・卒業年度・卒業学部学科
 - ④住所
 - ⑤電話番号
- 応募先 〒981-8551 仙台市青葉区国見6丁目45-1 東北文化学園大学 同窓会事務局 TEL:022-233-6194(直通) FAX:022-233-6419 e-mail:alumni@office.tbgu.ac.jp